

## 11月10日は「漆塗りのお椀でご飯をいただく記念日」

日本漆器協同組合連合会では、令和3年8月27日の理事会において、11月10日を「漆塗りのお椀でご飯をいただく記念日」(めしまりの日)と制定いたしました。

11月10日(1、1、1、0)は、1=One(椀)、One、One、0=マル(マリ)の日。伝統的な和食では一般的だった一汁一菜で必要なお椀(マリ)三個の語呂合わせです。

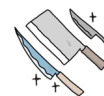
新鮮な野菜と少しのタンパク質で、健康に良い和食文化を漆器から再発信するもので、和食の歴史を考へて、木製品ならではのほんのり温もりを感じながら、炊き立てのご飯を食べていただきたい、そんな想いで制定しました。

また、11月は漆器に関する記念日がいっくつか制定されていることに加え、農林水産省が「和食」の普及を目的とした官民協働の取組「Let's!和ごはんプロジェクト」の集中活動月間である「和ごはん月間」としていることから、新たな漆器月間としてスタートします。



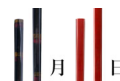
### 11月8日(刃物の日)

118(いいは)の語呂合わせと、刀鍛冶・鋳物師が11月8日(旧暦の霜月8日=伏見稻荷の火焚祭の日)に鍛冶場の鞆(ふいご)の火の神を祀る鞆祭(稻荷神などに参拝)を行っていたことから、岐阜県関市・岐阜県関刃物産業連合会・新潟三条庖丁連・越前打破物協同組合・東京刃物工業協同組合・京都利器工具組合・高知土佐山田商工会・島根県吉田村・堺刃物商工業協同組合連合会が制定した。



### 11月11日(国際箸の日)

平成20年11月9日に東京藝術大学に中国、韓国、ミャンマー、ベトナム、台湾などの代表が集まり、国際箸文化研究所の発足と国際シンポジウムを行い、同年11月11日には各国の理事が集まり、安全で美しく、正しい箸文化が世界各地に広がることで、人々が健康な食生活を送り、平和で安全な世になることを祈念して、国際箸の日として制定することを宣言した。



### 11月13日(うるしの日)

文徳(もんとく)天皇の第一皇子惟喬(これたか)親王が京都・嵐山の法輪寺に参籠し、虚空蔵菩薩からうるしの製法、漆器の製造法を伝授されたのがこの日であるとされていることから、昭和60年に日本漆工協会が制定した。日本の伝統文化であるうるしの美しさを今一度見直して日本の心呼び戻すことを目的としている。



### 11月24日(和食の日)

「和食」のユネスコ無形文化遺産登録(平成25年12月4日に登録)に向けた活動のなかで、日本の食文化にとって大変重要な時期である秋の日に、毎年、一人ひとりが「和食」文化について認識を深め、和食文化の大切さを再認識するきっかけの日となっていくよう願いをこめて、「いい(11)に(2)ほんしょ(4)く」と読む語呂合わせから、一般社団法人和食文化国民会議が制定した。



## 日本漆器協同組合連合会

青森県漆器協同組合連合会 秋田県漆器工業協同組合 鳴子漆器協同組合 会津漆器協同組合  
会津喜多方漆器商工協同組合 東京都漆器商工業協同組合 木曾漆器工業協同組合 村上堆朱事業協同組合  
伝統工芸高岡漆器協同組合 輪島漆器商工業協同組合 山中漆器連合協同組合 金沢漆器商工業協同組合  
越前漆器協同組合 紀州漆器協同組合 香川県漆器工業協同組合 社会福祉法人宮崎県大島振興協会

# 漆塗りのお椀でご飯を食べてみませんか？

～ 健康に美しく生きるために～

日本の食文化の器は、手に取り、持ち上げて唇に触れます。漆と木の軽さと柔らかさは、私たちの祖先が連綿と感じ続けてきた心地良さです。

皆様がお米を炊いたご飯を食べる時に使う器の素材は何ですか？ 汁椀は木製の漆器を使っている方も、ご飯は陶磁器という方が多いようです。お茶碗、飯茶碗、ごはん茶碗という言葉や漢字はよく考えると不思議です。茶碗は文字通りお茶を飲むための器です。明治に入るまで日本各地、ご飯をいただくのは木製の“飯椀(めしわん)=めしまり”だったのです。

地元の旬の素材で作った料理を、実りに感謝して皆で食しましょう。食卓の上、一汁三菜の料理を盛るための器が全て漆塗りである必要はありませんが、本物の漆と木で作られた飯椀、汁椀とお箸の三点が、美しい作法でいただく元を作ります。

お箸を横向きに置くのは日本だけです。お箸を持ち上げるのは、結界を解くことです。さっきまで生きていたそちら側の命を、こちら側の自分の命としていただくことへの感謝の想いなのです。いただきますという言葉はここからきています。

高度成長時代の前まで日本の食卓では当たり前であった、抗菌や保温に優れ、軽く、優しい手触りの漆の器で自然の恵みをいただく文化を体感して、皆で美しく、元気になりましょう。

毎年11月10日を漆塗りのお椀でご飯をいただく記念日制定委員会

会長 三田村 有純(arisumi mitamura)

東京藝術大学 名誉教授、日本漆器協同組合連合会アドバイザー